

報 会

ち か ら

静岡市相撲連盟
会長 中村修二
事務局 村越浩二
令和3年10月

静岡相撲部OBちから会
昭和30年ちから会創立
昭和39年11月初刊
会長 細倉涼太

☆関西支部だより

関西支部支部長 富坂誠二

関西支部の定期総会は今年もコロナ禍のため開催できませんでした。来年は開催できることを願っています。

○大阪人は家康が嫌い、太閤はんの秀吉が好き

私は、生粋の大阪人から「徳川家康は豊臣家をだまして天下を取った嘘つきで嫌いだ」と言われたことがあるように大阪人は太閤さんびいきが多い。

水の都、商都大阪の発展の基礎を築いた秀吉を「太閤はん」と呼んで親しみを表すのもうなずけます。

基盤の目に区画された街づくりは、大阪人の自慢の一つです。

大阪はJR大阪駅から淀屋橋、中の島ビジネス街あたりを「北」と呼んで、歓楽街の道頓堀、心斎橋、難波などは「南」と呼び、中心町は南北に二極化しています。

その南北を結ぶ幹線道路(8車線)は歌謡曲にもある御堂筋で、これの西側に四ツ橋筋、東側の道路は堺筋のように、南北の道路は全て「〇〇筋」と呼びます。

一方、東西に走る道路は北浜通、千日前道などのように「〇〇道(どおり)」と呼び、日頃の会話でも通りと筋があることで道路の方向づけが分かるので大変に便利です。静岡市内に例えれば、東西に走る道路を「本通」と呼べば、南北に走る両替町通りは「両替筋」と呼ぶと同じ。

○大阪人は建前より本音、合理主義者?

大阪人は何事にも建前より本音を好む傾向があります。この精神は合理主義に通じるもので、例えば地下鉄の駅名は省略して上本町6丁目駅は上六、天神橋筋六丁目駅は天六、「ここへ来るのに天六から地下鉄に乗った・・・」などと正式の駅名を耳にすることはまずない、まさに合理的と言えるでしょう。

大阪人の原点はこの合理主義にあり、自由な発想で新しいものを作り出して来たと言えます。以前に紹介した関西生まれの自動改札機や回転ずし機はじめ、新製品や新商品が多く生まれたのも不思議ではない。

○浪速人情も合理主義かと云うとそうばかりではない。

既に過去の話になる【大阪都構想】政策は、7年の歳月をかけて2回の住民投票を実施したが、2回とも僅差で否決された。

その主な要因は「大阪市」が消えて無くなることに、大阪都構想の合理性よりも浪速人情を大切にしたいと反対した結果だったと言われています。因みに大阪都構想に費やしたお金は7年間で100億円と新聞の報道です

☆「ちから」アーカイブス

企画吉永俊彦・渡辺 実 ・文岩崎安次

その4 少年選手への道筋①

その頃、県大会としてトーナメントによる県選手権大会があった。中学団体個人・高校団体個人・青年及び一般個人の種別であった。昭和三十七年に吉原市(現富士市)で第一回大会を行ったのがはじまりである。この選手権では加藤忠男君が青年で五連覇を成し遂げたり、一般では下村勝彦君が何度か優勝したりして静岡勢が活躍した。会場も何回目からは各地で行われたが、十月の護国神社の祭礼に合わせて行われたことが多かった。この土俵の依は護国神社のあと磐田若宮八幡郷土の土俵に使われることが多かった。中学はすぐ参加する学校がなくなつた。ある時、ハプニングが起きた。高校生の取組で組み手がこんがらがつて決まり手がわからず、放送の渡辺さん「コブラツイストで〇〇の勝ち」とやったら、高校生のが大喜びしてヤンヤの拍手喝采であった。回を重ねていくうちに時期的な問題もあったが、参加者が少なくなつてきた。少ないというより申込みはしても当日になつての棄権者が続出してきたのである。トーナメントであるため棄権者が出る時、片側のヤグラは一回戦から、もう一方のヤグラはいきなり準決勝からという弊害が何年かつづいて生じた。競技委員長として、進行も務めていた私は「こう毎年このような状態では大会の意味がない。選手権は会長杯大会を充実させて行けばいいのでこの選手権は廃止にしましょう」「ただ廃止してしまうのは無策なので、新たに小中学生を対象とした少年相撲大会を始めましょう」と滝川昇会長のその場で提言。滝川会長もこれを快諾された。昭和五十二年秋選手権大会最後の会場となつた錦田中でのことである。このことは昭和五十三年の新年総会に諮って実施が決定した。各地で市民大会等で行われている少年相撲を上につなげるための大会として、底辺拡大のための一大イベントとして将来的に注目を浴びる大会として成長していく。

つづく